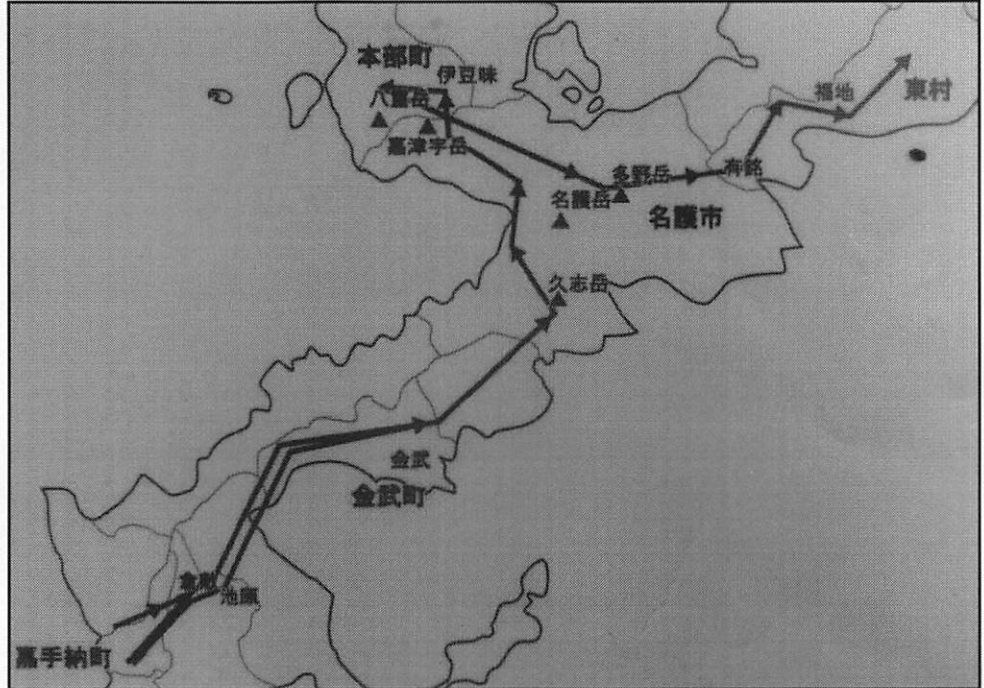


鉄血勤皇隊

現在の県立北部農林高等学校の前身は、1902年(明治35年)に開校された國頭郡各間切島組合立國頭学校です。その後1923年(大正12年)に林科を設置し、

そのときに沖縄県立農林学校と改称されました。

その県立農林学校の当時、1945年(昭和20年)3月27日、鉄血勤皇隊が編成され、第十九航空地区司令部(青柳隊)の指揮下に入り、中飛行場の食料を倉敷、現在の沖縄市まで運搬する仕事をさせられました。



米軍が上陸した4月1日の夕刻、敵陣に身をもって迫って攻撃する肉迫攻撃隊員として20名の生徒が選抜され、中飛行場に向かいましたが、結局、もぬけの殻で、引き返すことになり、本部半島の独立混成第四十四旅団第二歩兵隊(宇土部隊)の指揮下に入ることとなり、5日、伊豆味で同部隊に入隊しています。

一方、農林隊本体(肉迫攻撃隊以外の農林隊)は4月4日に金武の観音堂の壕に到着しましたが、食糧確保の難題があり解散となりました。

4月7日、肉迫攻撃隊の生徒達は、真部山に移動させられましたが、米軍の攻撃を受け、16日に多野岳へ撤退を開始し、多野岳に到着した翌24日、東村の山中に撤退することになりました。

27日、東村福地に到着し、28日、米軍との銃撃戦で少尉以下、9名の生徒が戦死しました。

人生の目標を持って県立農林学校で学んでいた生徒が戦渦に巻き込まれ、志半ばで亡くなることになったこと、またその家族の心情事を思うと、居たたまれません。

戦後72年、学校現場も平和教育の岐路に立たされています。勿論、戦争経験者の教職員は現場にはおりません。その中で、我々教師が、先の大戦、沖縄戦、また平和教育について、考え、学び、そして生徒に伝えていかなければならないと

痛切に感じます。

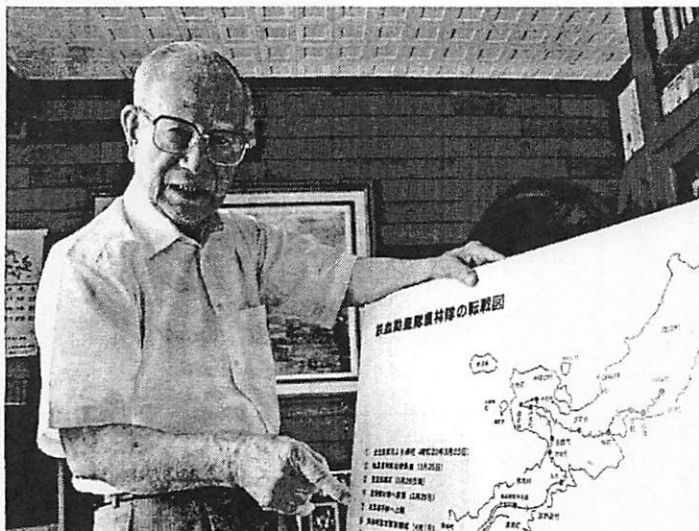
世界ではいまだに戦争が続いており、テロ等の新たな戦争の恐怖に世界中が包まれています。

我々は、この日本、沖縄において戦後が永遠に続くように、努力しなければなりません。

6月22日(慰霊の日 前日)に県立農林学校の慰霊祭が東村で行われます。二度と悲惨な戦争が起こることのない世を作ることを御霊の前で誓いたいと思います。

沖縄タイムス 2015年6月16日

戦死の10人明らかに



鉄血勳皇隊農林隊の足取りを説明する瀬名波榮喜さん＝那覇市寄宮の自宅

県立農林「最期の碑」に刻銘

沖縄戦中の1945年4月28日、県立農林学校の学徒10人が戦死した東村内福地。同校出身で、前名桜大学学長の瀬名波榮喜さん(86)がこのほど、同窓生の手記や生存者からの聞き取りなどを経て、これまでではつきりしていなかった10人すべての名前を突き止めた。「戦後70年目にして、ようやくけりがついた」と胸をなで下ろす瀬名波さん。村内に昨年建立した「県立農林学校隊最期の碑」に刻銘板を設置し、22日午後3時から除幕式と慰霊祭を執り行う予定だ。

前名桜大学学長

瀬名波榮喜さん調査



10人は同校から動員された「鉄血勳皇隊農林隊」約170人の中から選抜された「肉迫攻撃隊」の学徒たち。内福地(現在は福地ダムで水没している)では、隊長の尚謙少尉以下11人が戦死したとされているが、そこに至るまでの複雑な足取りなどから、学徒の名前は正確に分かっていなかった。

瀬名波さんは昨年、亡く

戦死者名	配属学校
安次嶺幸寿	三年生
大城喜孝	三年生
大城甚勝	三年生
我部甚勝	三年生
狩俣栄	二年生
狩俣栄	二年生
神谷仁	二年生
島袋寿夫	二年生
新本弘	二年生
平田清	一年生
仲村禎	一年生
仲村禎	一年生
平田清	一年生

東村宮城の「県立農林学校隊最期の碑」に設置される刻銘板の予定図

22日慰霊祭 参加呼び掛ける

なった同級生の遺志を継ぎ、内福地に近い東村宮城に「県立農林学校隊最期の碑」を建立した。そこには「尚謙隊長以下11名があら若い命を落とされた」と刻んだが、「生きた証しである名前も刻むべきだ」と思い直し、調査に乗り出した。

名前を突き止め「これで御霊も浮かばれる」と安堵する瀬名波さん。「慰霊祭、除幕式には多くの遺族に参加してもらいたい」と呼び掛けている。

慰霊祭は22日午後3時から。ただ場所が分かりにくいため、午後2時に東村役場で集合し、瀬名波さんが案内する。問い合わせは瀬名波さんまで。電話098(8032)9396

刻銘板に刻まれる学徒10人の氏名は次の通り。(敬称略、かっこ内は出身地)
【3年生】安次嶺幸寿(首里市) 大城喜孝(兼城市) 大城甚勝(南風原村) 我部操(首里市) 狩俣栄(下地村) 【2年生】神谷仁(東風平村) 島袋寿夫(読谷村) 新本弘吉(大浜村) 【1年生】仲村禎信(今帰仁村) 平田清(佐敷村)